

1. 研究動機および目的

私はこれまで建築などの作品を制作する際に、癖があると感じていた。

それはエスキースの段階で、まず形をつくらうとする際に、決まって幾何学の形態に落とし込んでしまおうとする癖である。どのような条件があろうと、それに対してどのようなコンセプトを考案しても、いざそれを形態に落とし込もうとする際に、まず幾何学の形態に頼ってしまう癖があると感じていた。

一概に幾何学の形態と言っても円や長方形、三角形などがあり、立体的な形態では、球体や直方体、三角錐など様々な形があるがとくに私は正方形や立方体などの四角い形態を多く使う傾向にあった。するとそのような傾向を受けてつくられた作品は印象的に「固い」「特徴のない」、「普通」というような、あまりポジティブでない印象を受ける作品が多くなってしまふ場合が多く、それを周りからも指摘され、自分自身もそのように感じる事が多々あったように思う。

大学院に進学し自身の研究テーマを考える上で、これまでの自分自身を改めて振り返ったときに、正方形や立方体に頼ってしまう傾向、手癖は、必ずしも悪いことではなく、むしろその形態に私自身が大きな魅力を感じているのではないかと考え、その形態によってどこまで表現でき、どれほどの可能性があるのかを追求していきたいと考えた。

キャラクターキューブと名付けた本研究は先ほども述べたような、「固い」、「特徴の少ない」、「普通」というような印象を受けがちな幾何学図形、その中でもとくに私自身が最も魅力を感じる「立方体」を中心に研究を進め、その形態が同じ立方体でも上記のような印象を覆すような様々な表情を持つ立方体、キューブとなることを目標に制作を進めていく。



2. 言葉から生まれるキューブ

キューブは球や正四面体などと並んで極めて抽象的で純粋な幾何学モデルである。建築は設計の過程で次第に幾何学から遠ざかり不純化していくが、にも関わらず古来より、特に近代以降は多くのキューブが用いられてきた。

それはおそらくキューブという形態に、私だけではなく少なくともキューブを設計などに取り入れている人にとっては、この単純な形態に美しさなどの魅力を感じさせる力があるからだと考えられる。私は学部の卒業制作で言葉をモチーフに空間をつくったのだが、言葉という形を持たないモチーフは、自分の想像を刺激し、より自由に形をつくるのに適していると考え、言葉の中でも特に形を持たない、状態などを表す形容詞から形をつくることに決めた。

まず私は、様々なバリエーションを持つキューブをつくらうと考え、50音順で42個の形容詞からキューブの形をつくることを試みた。この時点では建築をつくるという考えを一度捨てて、キューブという形態の持つ特性と、形容詞から来るイメージからつくっている。そしてそこから生まれた42個のキューブから、建築として機能を持ちそうなキューブを選択し、それらに建築的な機能を与えていった。

3. 機能はキューブに従う

シカゴの建築家、ルイス・サリヴァンの「形態は機能に従う」というフレーズはあまりに有名であり、現代の建築においても大きな影響を与え続けているが、形態と機能の関係は必ずしもそう言い切れるものではなく「機能は形態に従う」場合もあるはずであり、そのような順序で生まれたからこそその魅力も当然あると考えている。

私は洞窟などの自然が生み出す空間に非常に魅力を感じており、過去いくつかの洞窟を巡ったが、一概に洞窟と言ってもそれぞれに違った、特別な魅力があると感じている。洞窟という自然が生み出した建築は一つとして同じ形態をしておらず、中に入り歩いていく中で様々な発見をもたらしてくれる。例えば四畳半くらいの大きさの空間があれば、そこにベッドを置いて寝室にしてみたくなったり、もう少し大きな空間に出会えば、そこにソファを置いたらリビングのようになることを想像させてくれたり。またはスケールがもっと拡大して大空間に出会ったとき、そこに例えばオペラ歌手が一人現れるだけでそこはコンサートホールにもなる。実際にそのような空間を寝室やリビング、コンサートホールとして機能させようと思ったとき、当然必要のない部分や至らない部分が存在するのだが、「形態は機能に従う」によってつくられた、いわばセオリー通りの設計によって生まれた空間には無い、不完全な部分にも大きな魅力が隠れているように思う。

「キャラクターキューブ」においては洞窟のように、「機能は形態に従う」、もっと言うてしまえば「機能はキューブに従う」というフレーズと共に、形容詞から生まれた42個のキューブの形態に、機能を従わせてみたいと考え、今回、その中から建築的な機能を当てはめた際に、形態に魅力を感じた、または建築としての想像が生まれた6つのキューブに建築的な機能を合せてはめていった。



図2: 建築的な機能を持った6つのキャラクターキューブ模型

4. 機能を持った6つのキャラクターキューブ

図2.3は形容詞から生まれた42個のキューブから建築的な機能を与えた6つのキューブの模型とイメージバースである。これらはそれぞれ「小規模複合施設」「都会の中の植物園」「教会」「海上の展望台」「空の美術館」「一戸建ての住宅」という別々の機能を持っており、図1のドローイングの形態によって生まれた機能を持つ建築であり同じキューブという形態を用いて様々な表情、キャラクター性を提案出来たように思う。



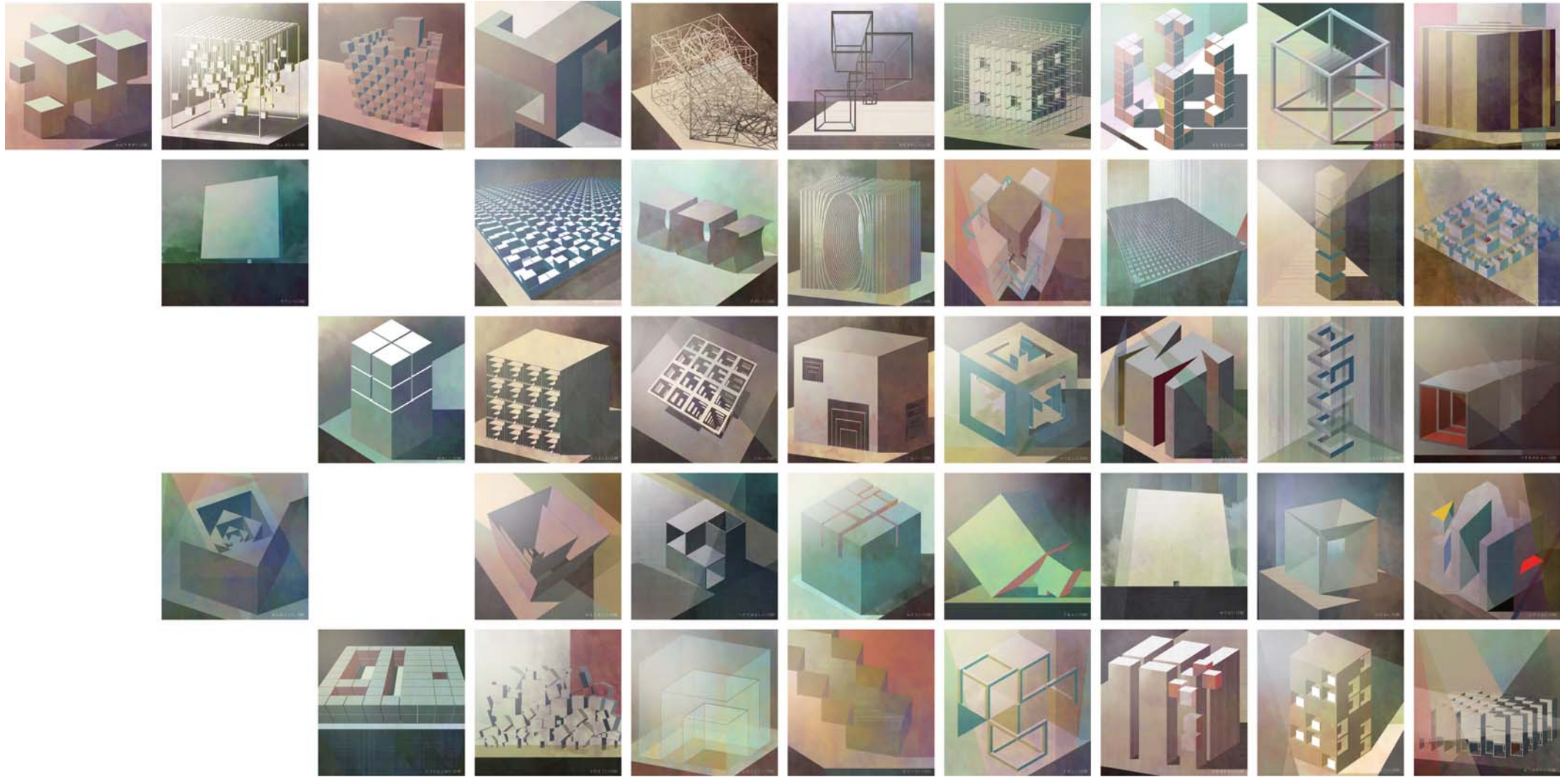
5. まとめ

私は本研究においてキューブという極めて抽象的な形態の魅力の追求と、その魅力的な形態を建築という舞台に投げ入れたときに生まれる、思いがけない偶然な発見をテーマに本研究を進めてきた。キューブという形態は世の中に溢れる、世界共通の形態であるが、あまり語られることの少ない、無口な形態である。

「キャラクターキューブ」というタイトルには、その無口で寡黙な印象を持つ形態、差し障りのない形態であるが為に、どのような概念を持つ作品においても気軽に用いられてしまう形態を、もう一度見つめ直し、改めてスポットライトを当てることにより、それぞれのキューブたちが多様な言葉を持つことを目標として作品をつくっていった。建築という分野に限らず、キューブという形態は今後も様々な場面で用いられてくるだろうが、その前に一歩立ち止まり、その形態の魅力について追求していくことの必要性を本研究を通して、認識させられることとなった。私はこれからも自らの手癖によってキューブを描き続けるだろうが、そこに描かれたキューブという形態に対する思いは、今までと大きく異なっていることだろう。



図3: キャラクターキューブが機能を持った際のイメージバース



今回、様々なキューブの形態を考案していく上で、言葉の中でも状態などを表す形容詞が、今回のキューブの形態をつくっていくことに適していると考え、50音順の中で形容詞が存在する、42個のキューブの形態を考案した。

モチーフにする形容詞は以下の通りである。

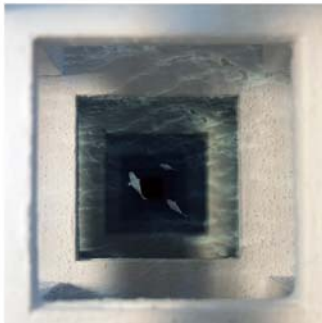
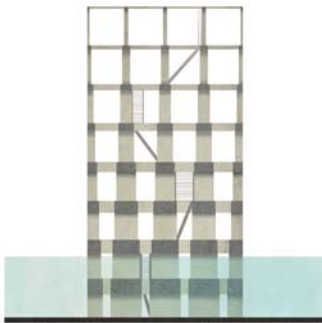
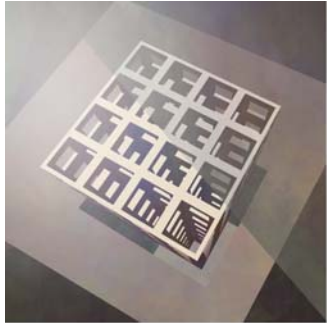
あざとい いけずうずうしい うすきみわらい えげつない おくゆかしい
 かわいい ざごちない くどくどしい けだかい こまごましい
 さむざむしい しつこい すんどい せつない そわそわしい
 たのしい ちかしい つつましい てあらい とぼしい
 なれなれしい にくにくしい ぬくい ねづよい のろくさい
 はげしい びびしい ふかい へだてがましい ほほえましい
 まわりくどい みやすい むさくるしい めまぐるしい ものすごい
 やさしい ゆゆしい ようじんふかい
 らんがしい りりしい れいれいしい
 わかりやすい

以上の42個の形容詞をモチーフに建築的な思考を一度捨て、純粋なキューブの形態の特性と、形容詞から生まれるイメージを元に形態を考案し、そこから建築的な機能を持ちそうな6つを選定し建築として提案する。



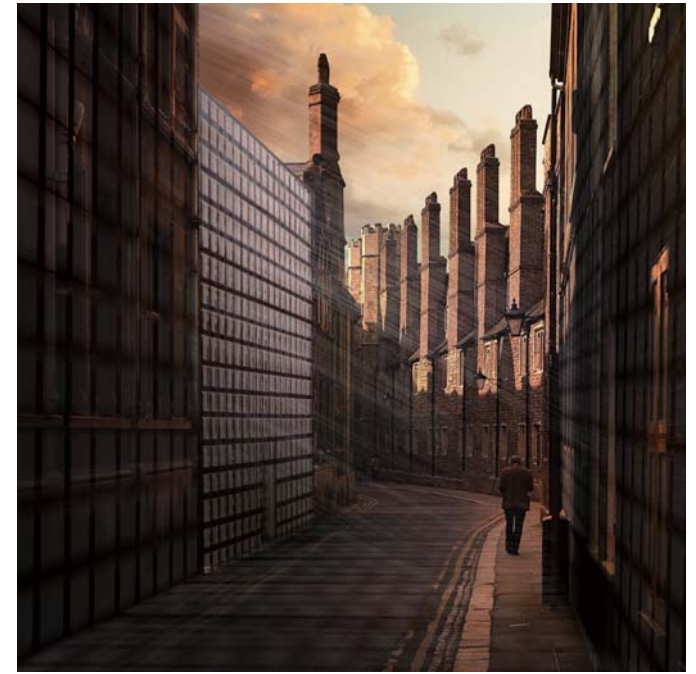
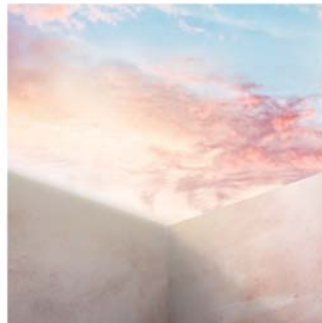
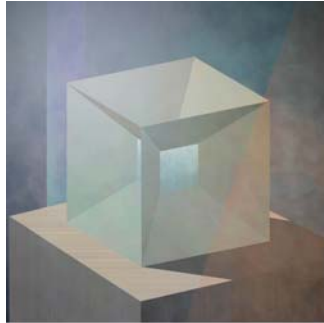
「ふかいキューブ」
用途＝海上の展望台

海の上の展望台。潮の満ち引きによって高さの変わるこの展望台は人間と魚が共に利用する建築である。海上に現れると人間が利用する展望台となり、海水に沈むと魚の棲家となる。海水に沈む部分は大きな負荷がかかるため構造体が下に行くにつれて太くなり、上に行くにつれて細くなっている。



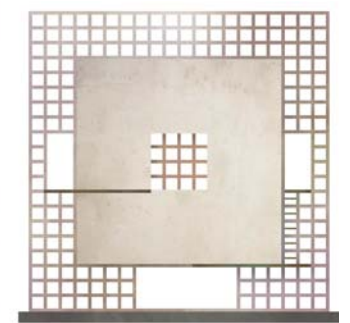
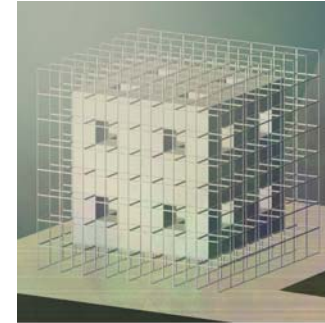
「けだかいキューブ」
用途＝空の美術館

空を眺めるための美術館。壁は全て中心に向かって押られながら延びていき、人が一人入れるくらいの小さな空間が待ち構えている。その小さな空間からは空に向かって視界が広がり、魅せ、空と私だけの空間となる。



「たのしいキューブ」
用途＝一戸建て住宅

格子に囲われたこの住宅は内部のキューブが生活空間となっており、その中で住人は生活する。周りに存在する格子は内部のキューブを構造的に支えるだけでなく、住人が木の板を買ってきてその木を配置するだけで、そこはテラスになったり、庭になったり、あるいは棚や階段、机や椅子になったりする。このキューブの中で、住人の生活は変化し続ける。





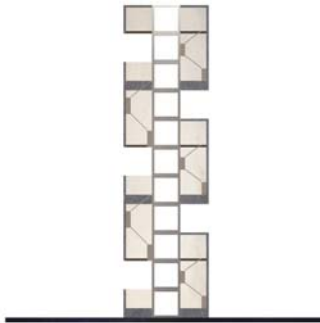
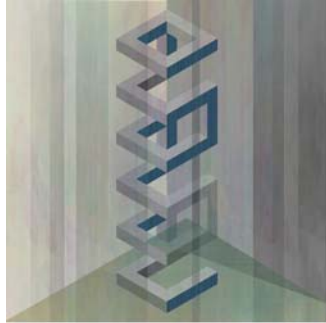
「へだてがましいキューブ」
用途＝小規模複合施設

三つの直方体からなる建築。それぞれの直方体は独立しており、互いが内部で交あうことはない。小さな複合施設として使用され、例えば飲食店や物販店、ギャラリーなどの機能を持つ。この形態を積み上げていくことによってビルとして使用することも出来るかもしれない。



「くどくどしいキューブ」
用途＝都会の中の植物園

都会の真ん中に聳える立体的な植物園。建物内の中心には大きな木が植えられており、それを取り囲むように螺旋状に道と植物たちが延びていく。ビルなどの建築物ばかりが建ち並ぶ都会の中に、空を目指す小さな森が現れる。



「ゆゆしいキューブ」
用途＝教会

ファサードの四面全てに入口が付いており、そこから階段を正面の光の十字架に圧倒されながら上っていく。中に入ると空から十字架の光が降り注ぎ、自然と意識は中心の祭壇へと導かれる。この建築の全ての壁は十字架によって構成されている。

